

# 「今、求められる体育・保健体育の授業」の創造に向けた ワークショップ 2017 開催報告

1. 主催・共催 神奈川女子体育連盟 かながわ保健体育・スポーツ学習会  
横浜国立大学（高橋和子研究室）  
桐蔭横浜大学（佐藤豊研究室） 東海大学（大越正大研究室）（順不同）
2. 後援 神奈川教育委員会・横浜市教育委員会
3. 日時 2017年8月25日（金）13:00~17:00
4. 場所 桐蔭横浜大学
5. 対象 公立及び私立小・中・高等学校教員及び大学教員、保健体育教諭を目指している大学生 等
6. 開催主旨

次期学習指導要領改訂では、「主体的・対話的で深い学び」をキーワードとし、これからの時代に求められる資質能力を身につけること、どのように学ぶかという学びの質を重視した授業改善等が求められています。そこで、昨年度に引き続き、神奈川女子体育連盟、かながわ保健体育・スポーツ学習会、横浜国立大学、桐蔭横浜大学、東海大学等の体育科教育研究者の共同開催によって、学校、大学、教科研究会などの多様な立場が連携して体育科・保健体育科の授業改善のための交流を図る機会を企画しました。「主体的・対話的で深い学び」の視点から、中核となる知識をどのように捉え、思考・判断・表現、学習に向かう態度をどのように育むのかを、全体会ではコアコンセプトを中心に、分科会ではダンス、体づくり運動、体育理論、保健の授業における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを参加者とともに創造するワークショップを開催いたしました。

## 7. 内容及び記録

**開会式** 挨拶 小泉いずみ 神奈川女子体育連盟会長

**全体会** 主体的・対話的で深い学びにつながるコア・コンセプトの検討

司会：佐藤豊（桐蔭横浜大学） 解説：高橋和子（横浜国立大学）

○学習指導要領改訂の方向性の確認「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」

○カリキュラムマネジメントを考える。教科内では体づくり運動、保健、その他の領域、体育理論のつながり  
を考える。教科外と年間指導計画のかをカリキュラムマネジメントの視点から考える。学校外連携では家庭  
や地域、外部指導者の活用などが考えられる。

○楽しさを深く味わうためには？ 人間形成から見たスポーツの価値とは？

○わかるとできるをつなぐ知識とは？

○コア・コンセプトの検討（グループワーク）

⇒プレゼンテーション（各グループを回る方式）

領域を選択し、概念知（汎用性・汎用性の高いもの）・  
方法知（高め方や課題の発見の知識）・具体知（感覚的な  
コツやポイントなど）の検討をすることで授業内でわかると  
できるをつなげることの確認ができる。

⇒例＊球技（バスケットボール）・空間に入り込む動き・

アウトナンバーでの経験・場の使い方（広く、前、相手の位置）指導要領の中の確認にもなる。

○体育の見方や考え方、各領域の大切にしたいものが、指導要領のコア・コンセプトが教師によって違わない  
様に

○カリキュラムマネジメントも大切 保健ともできる。例えば体づくり運動の中などでもできる。



## 分科会① 取り組みやすい「笑いと大きな動き」を入れた楽しい「表現運動・ダンス」

講師：高橋和子（横浜国立大学）・小笠原大輔（湘北短期大学）

- ① ストレッチ
- ② 歩きながらタッチ
- ③ 歩く⇒タッチして手を下げて少し押す
- ④ ハートストレッチ
- ⑤ 肩入れ、足入れ方向転換、胡坐で、二人組で
- ⑥ 4人組で「床気をつけ」あっち向いてホイ⇒構図を楽しむ
- ⑦ 右左右左右左（5分くらいの曲に合わせる）  
先生の合図で動く、リーダーを決めて動くなど
- ⑧ 音に合わせて 大人っぽく動いてみるなど
- ⑨ じゃんけん 音楽に乗って軽快に 1人目から5人目まで  
5人目で床気をつけしてみる
- ⑩ ペアでジェスチャーゲーム オノマトペやカードを使用して
- ⑪ イメージかるた（3種類）に書いてあることをもとに即興で動いてみよう⇒  
例：オリンピックレベルの・メリハリのある・象



※日常の動きから表現やダンスにつなげてみる。広がり、つなげる。イメージかるたは、発想力がないとできないが、楽しそうにやるのがポイント。恥ずかしがらせる間を与えない。面白いものを使う。お笑いのネタやジェスチャーからダンスの動き創作活動のイメージにつなげる。二人になったりグループで話あったりしながらコミュニケーション能力も高める。



## 分科会②「体づくり運動」主体的な学びの充実のためのICTの有効活用！

講師：佐藤 豊（桐蔭横浜大学教授）木原慎介（東京国際大学）

○中学校2年生を想定し体づくり運動アプリを2人組で使用する

- ・運動例を参考に動いてみる
- ・グループで道具を使って（用意されたビニール袋、ロープ、フラフープなど）川渡り！
- ・一人一人の選んだ道具を先頭の人に送りながら全員で川を渡る。（交流・調整・達成）

実際には音楽などをかけながらやるのも良い。

○人間知恵の輪…気づき・交流

○2人1組で自分たちで高めたい力を決め運動を選択し回数、時間など調整し、独自のメニューを作り出す。作ったメニューを行ってみて、最終的にメニューに取り入れるかどうか決定する。自分たちのメニューが思っていた効果が得られたのかを検証する。





### 分科会③ 小・中・高をつらぬく“スポーツの価値を高める体育授業”を創る！

講師：大越正大（東海大学准教授）・野間基子（かながわ保健体育・スポーツ学習会）

#### ○趣旨・講義：

オリ・パラ教育が推進されている現在、各学校、各教師がスポーツの価値をどのように捉え、発達段階に応じて子ども達に何をどのように伝えればよいのだろうか。本分科会では、価値を教える授業から一歩踏み込み、価値観を育む授業づくりを考えたい。

価値観の形成は出会う人や環境などによって変わる。このことについて、様々な立場の人々が持つスポーツの価値観を知るとともに、歴史の中で、スポーツがどのような役割を果たしてきたのかを捉えることで実感する。

知識だけでは価値観の高まりに繋げるのは難しい。知識と実体験の往還が必要である。しかし、経験の内容によって、必ずしもプラスの価値観を育むとは限らない。プラスの価値観に繋げるには、体育学習において、どのような学習活動を行い、指導支援をしていく必要があるのだろうか？これを演習のテーマとする。

#### ○演習（グループワーク）

- ① スポーツの持つ価値（プラス面）とスポーツの持つマイナス面についてブレインストーミングを行い、カテゴリー分けをし、お互いにシェアをする。
- ② 小～高において高めたいスポーツの価値観について、アクティブラーニングとカリキュラムマネジメントの視点を大切にしながら、系統的に内容や活動等を整理する。

#### ○まとめ

スポーツの功罪について、指導する側が明確に把握することで、子どもたちの成長過程にあったスポーツの価値を教えることができると考えられる。しかし、生徒のスポーツの価値観は、それらの伝え方によって変わる。であるなら、まず教師自身が望ましい価値観を持つ必要があると考えられる。



### 分科会④ アクティブラーニングを促す保健授業

講師：杉山正明（星槎大学特任講師）（原悦子（横浜市立南高等学校））

#### ① これからの保健授業のとらえ方とアクティブラーニング

次期学習指導要領に示された「保健の見方・考え方」は、「個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること」であり、このことを意識した授業づくりが重要である。「保健の見方や考え方」を、すべての小単元を通して考慮していくことやヘルスプロモーションの理念に触れることも大切である。また、学校や地域の実態に合わせながら、保健教育としての保健学習の意識も大切である。

- ② 保健学習としてのアクティブラーニングを体験してみよう！（グループワーク）  
 課題：「生活習慣病のコンセプトマップ（連鎖図）を作成する」→ 他のグループに発表するワークを行った。コンセプトマップ作成は暗黙知を引き出しながら、生活習慣病に関わるキーワードを挙げ、それらがどのように関連しているのかを線で結びながら、生活習慣病の全体像に迫ることができ、生徒の「主体的・対話的で深い学び」に繋げやすい。



- ③ アクティブラーニングの学習過程について

アクティブラーニングはその学習過程が大事である。単にペアやグループなどで自主的に活動をさせることで興味を引き付けることができるが、それにとどまらず、学習過程での教師の介入や最終的に何を導かせるのかなどを教師が意識することが大切である。例えば、今回のコンセプトマップ作成を通して「生活習慣病予防の概念」を考えさせたり、生活習慣病予防のための「健康だより」をその後で作成させることによって、学校や地域の健康だよりのような情報に興味を持たせられることにもつながる可能性もある。そのようにして学びを深めていくことで、学習効果もあがると考える。

- ④ 保健学習のアクティブラーニングの例

横浜市保健体育研究会がおこなった昨年度の研究の資料提供により様々な事例と効果などが示された。



### 分科会の情報共有・質疑応答・まとめ

各分科会の内容を、各分科会の講師の先生方よりフィードバックをいただきながら、補足も含めまとめていただいた。

**閉講式** 挨拶 田村幸久（桐蔭横浜大学特任教授 かながわ保健体育・スポーツ学習会代表）



このたび、昨年度に引き続き神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会の後援やご協力をいただき、素晴らしい講師の先生方を迎え、そして、多くの保健体育の授業を真剣に考える方と、「これからの保健体育の授業の創造に向けたワークショップ2017」を開催できましたことに、深く感謝申し上げます。昨年度よりも、さらに参加者に主体的に参加していただくワークショップを多く取入れることで、実践的な研修会になり大変充実した会となりました。指導要領改訂の時期でもあり、新しい情報を正しく取り入れることと、何より大切なのはより良い保健体育の授業をつくる熱い思いだと思います。遠方より足を運んでくださった方々もいらっしゃり、その熱い思いを感じられる研修会になりましたこと、参加者の皆様、そして講師の先生方には深く感謝いたします。また、会場校の桐蔭横浜大学及び学生の皆様には、会場の準備や当日の係りなど、様々な面でお世話になりました。この場をお借りして感謝申し上げます。（幹事： 原悦子）